
美山ホームのあゆみ

社会福祉法人阿部睦会は、初代会長阿部倉吉が20余年の永い社会福祉事業の経験を基に終戦当時の混乱した社会情勢に対応して、授産、保育、老人等の幅広い施設運営の取り組みを始めるも、昭和28年に急逝。理事会の推薦により阿部絢子が、その意思を継承し二代目会長に就任。同時に老人福祉の重要性を察し、共楽荘老人ホームの整備充実と共に付属診療所の設置等をすすめながら、昭和39年にここ三浦市の温暖風光明媚な地に、お年寄りの健全な明るい生活の場として32名定員の共楽荘初声分園を開設致しました。そこでは利用者のプライバシーを確保する為の大きな配慮と致しまして、居室は全て2人部屋が造られ、全国でも類を見ないものでありました。其の後、昭和45年に社会的要望と老人福祉の将来的展望により鉄筋コンクリート3階建ての全室2人部屋が増築され、ここに改めて定員80名の養護老人ホーム「美山ホーム」が誕生したのでございます。然しこの美山ホームも年月を重ねるに従い高齢虚弱者が増加し、入居者の約3割が特別養護老人ホーム対象者となり又地元三浦市には特別養護老人ホームが未だ設置されていないと云う実態を踏まえ、昭和60年度事業と致しまして国、県、市、県共同募金会、神奈川県社協、社会福祉医療事業団等の、ご支援の基に定員50名の特別養護老人ホームを新設し、併せて従来の養護老人ホームの完全個室化を図るために3階建て1棟24室を増築したのであります。そして平成15年度16年度事業として小規模生活単位型（完全個室のユニットタイプ）の特別養護老人ホーム30床と短期入所10床を増床し、特養定員80名、短期入所を既存を含め14床として、また養護老人ホームは定員30名に縮小して平成17年度より新たな体制で歩みをはじめ美山養護老人ホームと美山特別養護老人ホームは共々地域の中で親しまれ、地域社会での貴重な福祉資源として活用頂けるよう各種在宅福祉サービスも行いながら、そこに愛とめくもり、そして信頼とが芽ばえるよう職員一同努力致している所でございます。